

今日も「丁あがり」

第9話 老化した化成肥料プラントを
必要最小限の時間で補修せよ！の巻

皆さん、こんにちは！ 家用車の2トトラックの荷台に正体不明のキノコが大量に生えてきてしまったロブストス高垣でございます。昨年はまだ可愛いやつだったんですが、今年はおレンジ色の危なそうなやつが生えてきて、ガチのマジで困っています。以前、化成肥料プラントの補修工事で一緒に働いた溶接屋のオヤジのトラックにも生えてきたそうですが、肥料でキノコ菌がパワーアップしてしまったのでしょうか？

ラウンドアップをぶちまけても全く効きません(笑)。詳しい方、ぜひ対策を教えてください!! この話のついでに今回は化成肥料プラントへお連れしましょう♪

リスクな一発勝負の仕事

日本全国どの業種でも直面しているのが設備の老朽化です。例えば農協さんのライスセンターもそうですね。トラクターも30年選手がゴロゴロしていて、駆動部を中心にさまざま

なな部品の修理依頼が届きます。そう、プラントも同様に傷んでいます。プラントの場合は何日も休ませられないので、稼働を止めずに修理しなければなりません。つまり、補修部品を事前に設計・製作しておいて、必要最小限の時間で溶接・組立するという、非常にリスクな一発勝負の仕事が求められるわけです。絶対にミスできません。

今回は化成肥料メーカーの依頼を受けて、設計担当として補修チームに参加することになったんです。僕の仕事を信頼してくれた鉄工所からの「誰もやりたがらない『男のなかの男の仕事』を任せるよ」という熱い言葉にそのかされて工場に放り込まれたわけですが、四の五の言わずにやってみましょう♪ 粉まみれでワケのわからない粉を吸いまくって、「大丈夫かな……」と思いつつ自ら自暴自棄気味にだんだんテンション上がってきて、プラント内に一人きりで高揚感に包まれながら攪拌ス

クリューとタンクの図面を描きました(笑)。

【今回の作業はコチラ】

- ① 防護服と防塵マスクを装着する
- ② 機能を理解し、新規で作る部品とそのまま生かす部品を決める
- ③ ピローブロックなど付随する汎用部品を整理する
- ④ 寸法を測る
- ⑤ 後工程を考えながら設計する

工場が止まる日曜日にきちっと完了。サウナに寄って帰りました♪

農業と製造業、双方の幸せを

僕の仕事は農業の側から語られることが多いのですが、そもそも製造業を盛り上げようと始めたので、ガチな職人に認められることが一番嬉しいんですよね。昨年、農業生産資材のコストダウンを模索する農水省の会議にも呼ばれました。そこでは、農家さんは「安くしてくれ」、一方のメーカーさんは「作物を高く売る努力もしてくれ」と、双方に一方通



高垣達郎 (たかがき・たつろう)
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に㈱ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。㈱ロブストス代表取締役社長。

行の議論に終始しているんです。農業の現場も大変ですし、肥料を作っている方々の労働環境も決して恵まれているわけではありません。仕組みの問題はあると思いますが、一度、業界の将来を背負う農家の皆さんの目で、資材を含めた農業生産全体を現場レベルで見渡してみたいかがでしょうか。関わる方々が幸せでいられる農業を目指していきたいですね。ということ、今日も一丁あがり〜〜♪



写真1：事前に設計・製作した攪拌スクリュウをオヤジたちが組み立てる様子



写真2：近くにあった搬送スクリュウも傷んでいたの、ついでに♪



写真3：防護服と防塵マスクを装着。「この現場、かなりキツイです……」